

多様な子育てに対応する支援策を！

多摩・生活者ネットワーク市議会議員 星野なおこ



東京都では平成7年から、住民が身近なところで子どもと家庭に関する問題を相談でき、サービスを受けられる体制整備として、子ども家庭支援センター事業を進めてきました。多摩市では、多摩市立子育て総合センターにおいて、子育て中の親子が利用できる施設開放や一時預かり事業、要保護児童に対する支援のネットワークの中核として、子ども家庭支援センター事業を行っています。

**子育てにもリフレッシュ**

少子化の原因として、結婚や出産に対する価値観の変化や仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れ、経済的不安の増大などが挙げられています。このような現状の中では、今までのようなイベントをやつて保護者に来てもらおう、子どもで来てもらおうといったイベント型の子育て支援だけでなく、家族をサポートする事業が求められているのではないのでしょうか。高齢者や障がい者をケアしている家族支援としては、レスパイトケア（一時的にリフレッシュを図る家族支援サービス）が早くから取り入れられました。子育て支援に対しても、一時的に

お子さんを預かるショートステイ事業や夜間まで預かるトワイライトステイ事業など、レスパイトケアの充実を提案しました。保育園や子育て支援を行っている団体など、地域資源を活用しながら事業の充実を図っていききたいとの答弁がありました。また、就労環境の変化や父親の育児参加促進に対応するためには、子ども総合センターの日曜開館を求めました。この問いに対しては、日曜日に子育て総合センターのスポット的な活用ができないか検討していくとの答弁がありました。

**生きる営み「食」**

平成25年度全国学力・学習状況調査に「朝食を毎日食べているか」の質問に対して、多摩市では「毎日食べていない」小中学生が全体の10%を占めています。現在、児童生徒を通して家庭に食育を推進していく取り組みが行われていますが、望ましい食習慣が家庭に定着できるように家庭そのものに届く取り組みが必要なのではないでしょうか。

社会の一員としての子どもたち

多摩・生活者ネットワーク市議会議員 向井かおり



国連は日本に対し、子どもに影響を与える計画立案や実施の際には「子どもの意見の尊重と参加する権利」など、子どもの権利条約の原則を反映させるよう再三勧告しています。多摩市自治基本条例では子どもも市民として位置づけられていることから、阿部市政での、市民（シチズン）としての子どもの育成について質問しました。

**まちづくりの主権者として**

多摩市子どもプランの見直しにおいても、市は子どもの参加は目標を決めていないと認めています。ここでの「参加」は催しへの参加に留まっています。現在進められている「公共施設の見直し」や「みどりのルネサンス」でも、子どもに対する特別な声かけはなく、十分な参加はみられませんでした。

子どもたちは施設の利用者であり、また将来の納税者です。少しづつ子どもの参加の試みがされています。永山第2公園のワークショップでは公園緑地課が近隣児童館を通

じて子どもたちの参加を得ており、また、昨年行われた多摩市教育委員会による多摩市子ども会議では、子どもたちの意見を引き出すための専門的な研修を受けたサポーターらによって、のびのびとした子ども同士の意見交換と提言が行われました。こうした姿勢を全庁で共有し、単に意見を聞くだけでなく、子どもたちに関わりやすい資料や説明、会の設定などの工夫をすることによって、ともに学びながらまちづくりの主体者として育む努力を市長に求めました。

**若者の課題もしっかり受け止めて**

一方、児童青少年部においては、児童館の利用可能な18歳までには虐待や不登校、高校中退などの深刻な課題があり、これまで児童館職員は地道に受け止めてきました。しかし現在、就労や引きこもりを含めた若者の課題は深刻です。特に中卒後の対応の不十分を指摘し、子ども若者支援法に基づく組織と施策を求めましたが、その理念には沿うとの答弁に留まりました。

# 湧水は豊かな自然のバロメーター

## ～大事にしたい湧水の風景～

(調査日 2013年 10・11月)

多摩ニュータウンは豊かな里山を開発して造られたまちです。開発に伴い樹木をはじめとする緑が大量に失われ地下水の脈も大きく変化し、河川の水量や井戸・湧水が枯渇しました。大規模な開発がほぼ終息した今、湧水はどこまで復活したのでしょうか。

2003年に市で地下水の調査を行いました。その時には井戸の他にかなりの数の湧水が記載されています。しかし現在の多摩市環境基本計画には、市内の湧水の場所は2か所（寺ノ入り・大谷戸公園）しか載っていません。

湧水は水循環の過程で地下水が地表に現れたものである（環境省水・大気環境局の湧水保全復活ガイド）と定義されていますが、私たちは市内でその様な状態の地表に水が現れている場所を調査してみました。（森岡 淳子）



**①山王下緑地**

山王下1丁目の南側法面の下に三角池があります。ここは、昔は水量が豊富で春にはオタマジャクシがたくさん見られましたが、今は法面からちよろちよろ水がしたたり落ちる程度になっていました。

**②百草団地南側バス通りの下の駐車場**

崖の縁に水が湧き出ているところがありました。（現在立入禁止・要許可）よく見ると水底の砂が吹き上がっており、まだ小さいザリガニが見られました。この先をたどると先は暗渠になって乞田川に流れこんでいると思われます。



**④大谷戸公園内**

「大谷戸の谷」の石碑が立っている所から水路がありますが、全く水はありませんでした。その先「火垂の沢」の所から水が湧き出ましたが、鉄バクテリアの発生で水面下は茶褐色におおわれていました。



**③豊ヶ丘の杜**

湧水というよりは浸み出てくる水という感じでぼたぼたと下に落ち、水たまりを作っていました。



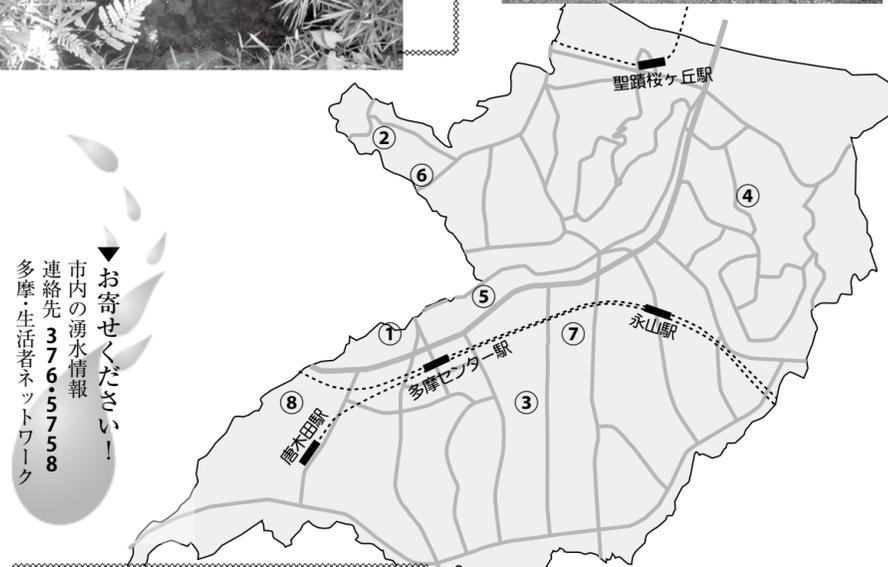
**⑥中和田天満宮の池**

古来より段丘の中腹より伏流水が湧き出て「おみたらし」と呼ばれて今に至っていますが、祠に上がる階段の下に小さな池があり、岩肌から水がしたたり落ちているのが見えました。



**⑤愛宕第4公園（ロケット公園）**

斜面から出てくる水が芝生を縫って流れています。現在は鉄バクテリアの茶色い水がよどんでいましたが、つくった当時は豊富な水が傾斜の少ない水路を流れていたのでしょうか？調査中、小さな湿地にサワガニ発見。



▼お寄せください！  
市内の湧水情報  
連絡先 37655758  
多摩・生活者ネットワーク

**⑦貝取1丁目集合住宅付近**

貝取山緑地下の集合住宅の一角に、小さな水路が作られていました。全体が湿っていて岩を伝って湧水がしたたり落ちていました。植物が張り付いていて、水路はとでもきれいに手入れされていました。

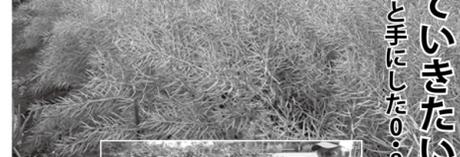


**⑧寺ノ入りの湧水（唐木田のみち）**

寺ノ入りの湧水は多摩市にある2か所の湧水のひとつです。池には満々と水が張り、あふれた水は水路へと流れ落ちていました。湧水口はどこか、深さがどれ位か調査したいと思います。

**広げていきたい菜の花油**

〜やっとな手にした0.8L〜 武内好恵



菜の花プロジェクトを多摩市でも！と滋賀県近江八幡市愛東町の視察に出かけたのが2008年、それから6年がたちやっとな手菜の花を育て搾油するところまでごぎつけました。

「菜の花プロジェクト」とは、①休耕田や転作田を活用して菜の花を栽培し②咲いた菜の花は景観を向上させ養蜂にも活用され③刈り取られたナタネは搾油され食用油になり④搾りかすは肥料として利用されます。